

The Molecular Biology Society of Japan

MBSJ NEWS

日本分子生物学会

2024.11

No.140

会報

目次

■ 令和7年度（第47回）通常総会のご案内	1
■ 第47回日本分子生物学会年会（MBSJ2024）開催のお知らせ（その4）	2
■ キャリアパス委員会主催 ランチタイムセミナー 2024 「この人たちに聞こう！キャリア形成と本音」 「研究生活、天国ですか？地獄ですか？」	8
■ 研究倫理委員会企画・研究倫理ランチョンセミナー 「最近の学術論文の動向：フェイク論文が増えている？学術的品質保証の必要性」	9
■ 学会誌『Genes to Cells』編集室よりお知らせ	10
■ 第48回日本分子生物学会年会（MBSJ2025）開催のお知らせ（その1）	11
【年会長の挨拶 その1】	11
【年会組織】	12
【プログラム概要】	12
【公募シンポジウムの企画公募について（2025年1月31日(金)受付締切）】	15
【日程表（予定）】	19
■ 第24期理事選挙結果のご報告	20
■ 学術賞、研究助成の本学会推薦について	21
■ 第23期役員・幹事・各委員会名簿	22
■ 賛助会員芳名	23



特定非営利活動法人
日本分子生物学会

<https://www.mbsj.jp/>



年会長：小林 武彦
(東京大学定量生命科学研究所)

2025年7月1日～10月1日

令和7年度（第47回）通常総会のご案内

令和6年11月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会
理事長 後藤 由季子

以下の要領で第47回通常総会を開催しますので、お知らせいたします。

ご承知のように、本法人の重要な案件は総会で決定されます。総会成立には、正会員、名誉会員、シニア会員、次世代教育会員の総数の1/2以上の出席（委任状を含む）が必要となりますので、会員皆様のご積極的なご参加をお願いいたします。

記

日 時：令和6年11月27日(水) 19:15～20:15

会 場：福岡国際会議場 4階 411+412（第6会場）

予定議題：1) 経過報告（理事長報告、庶務報告、編集報告、その他）

2) 令和6年度（2024年度）決算承認の件

3) 令和7年度（2025年度）活動予算書承認の件

4) その他

◎以下のいずれかの方法でご出欠回答をお願いいたします。

ご都合がつかない場合には、必ず委任状をご提出ください。

①学会ホームページに設置されている出欠回答（委任状）フォーム

（右のQRコードからアクセス）

②学会よりメール配信された回答フォーム（10月末配信）使用によるメール送信

③新年度の会費請求書（10月下旬発送）に同封されている出欠はがき



※③は年会準備の都合上11月22日(金)必着でお願いいたします。

※総会会場にて軽食（サンドウィッチ・ジュース）をご用意する予定です。

（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

第 47 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2024) 開催のお知らせ (その 4)

会 期：
(オンライン開催) 2024 年 11 月 26 日(火) ※希望ポスター発表のみ
(現 地 開 催) 2024 年 11 月 27 日(水)~29 日(金) ※ 3 日間
会 場：福岡国際会議場、マリンメッセ福岡 A 館・B 館
年 会 長：木村 宏 (東京科学大学総合研究院)
後期-当日参加登録期間：2024 年 10 月 10 日(木)~11 月 29 日(金) 17:00

年会事務局連絡先：第 47 回日本分子生物学会年会事務局 (株)エー・イー企画 内)
〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4 階
Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2024@aeplan.co.jp
年会ホームページ：https://www.aeplan.jp/mbsj2024/
X (旧 Twitter) アカウント：https://x.com/mbsj_2024/

【年会長の挨拶 その 4】

いよいよ年会が近づいてきました。5 年前の佐々木年会以来の福岡開催ということで、楽しみにしておられる会員も多いと思います。周知するのが遅くなってしまいましたが、本年会では、年会特別企画として、研究費問題に関するパネルディスカッション (28 日夕方) と若手向けの海外研究のためのフェローシップ紹介 (28 日昼) を企画しました。軽食も供給されますので、是非お越しください。研究費問題のパネルディスカッション「研究費の現状と課題」では、永田恭介さん (筑波大/国大協会長) に運営費交付金に関して、後藤由季子さん (東大/分子生物学会理事長) に科研費増額運動について話題提供していただきます。若手向けの企画「EMBO-JSPS-HFSP から若手研究者へのメッセージと奨学金制度」では、欧州分子生物学機構 (EMBO) から最新の出版状況に関する話題提供をしていただき、EMBO、日本学術振興会 (JSPS)、ヒューマンフロンティアサイエンスプログラム (HFSP) からフェローシップのご紹介をいただきます。また、日本学術振興会の方による科研費制度と特別研究員制度の最新の動向について紹介していただくフォーラムも準備しました (いずれも 27 日夕方)。最終日午後の市民公開講座では、次の年会長である小林武彦さん (東大) が司会を務め、大隅良典さん (東京科学大学) も登壇されます。

今年の年会は、エンターテインメント性の高い演出はありません。しかし、シンポジウムやミニシンポジウム、学会・年会企画、フォーラムなどは充実していると思います。オンラインでのシンポジウム参加も可能です。是非、異分野・新分野のシンポジウムへの参加もご検討下さい。分子生物学会では例年ポスター発表で活発に議論が行われていることから、ディスカッサーも手配しました。フラットな雰囲気の中で、自然と議論が行われ、新しい研究構想や共同研究が生まれることを期待しています。なお、本年会では若手研究者の発表にポスター賞を出すことにしました。ポスター賞へ応募された皆様や審査員をお引き受けいただいた皆様には御礼申し上げます。現地で二次審査がありますので引き続きよろしくお願いします。また、写真コンテストを実施しておりますので、投票をお願いいたします。

既に年会の要旨へのアクセスが可能になっていますが、シンポジウム 146 企画、フォーラム 18 企画、ポスター発表約 3,000 演題があります。事前に演題や要旨に目を通していただくと現地で効率良く回ることができると思います。また、多数の企業にご出展いただいております。今年も好評のスタンプラリーを実施します。各社製品の最新情報が得られると思いますので、企業展示にも是非足を運んでいただきたいと思います。

本年会は一部ハイブリッド形式を採用しておりますので、福岡まで来ることができないという方もオンラインで参加できます。オンラインでは現地発表のポスターを見ることはできませんが、11 月 26 日(火)のオンラインポスター発表と 27-29 日のシンポジウムへのアクセスは可能ですので、是非ご参加ください。また、学部学生の参加は会員・非会員を問わず無料ですので、研究室の学部学生の皆様にもオンライン参加 (お近くの方は現地参加) をお勧めください。

一緒に生命科学を盛り上げていきましょう！

第 47 回日本分子生物学会年会
年会長 木村 宏
(東京科学大学総合研究院)

*10 月から新大学 (略称 Science Tokyo) となりました

The 47th annual meeting of the Molecular Biology Society of Japan (MBSJ) is fast approaching. It has been five years since the annual meeting in Fukuoka organized by Prof. Sasaki, and I am sure many members are looking forward to its return to Fukuoka. Although this announcement is a bit delayed, we have planned two special events for this year's meeting. One is a panel discussion on research funding issues on the evening of the 28th, and the other is an introduction to overseas research fellowships for young researchers during lunchtime on the 28th. Light refreshments will be provided, so please feel free to attend.

In the panel discussion titled "Current status and challenges of research funding", Prof. Kyosuke Nagata (University of Tsukuba / President of the Japan Association of National Universities) will discuss the allocation of operational subsidies, and Prof. Yukiko Goto (University of Tokyo / President of MBSJ) will provide insights on the campaign to increase KAKENHI grants. Additionally, in the session for young researchers, "Messages and Fellowship Opportunities to Young Researchers from EMBO-JSPS-HFSP", representatives from the European Molecular Biology Organization (EMBO) will discuss recent publication trends, and EMBO, Japan Society for the Promotion of Science (JSPS), and Human Frontier Science Program (HFSP) will introduce fellowship opportunities. A forum with the JSPS will also provide an update on the KAKENHI system and the special research fellowship program (both scheduled for the evening of the 27th). For the public lecture on the afternoon of the final day, our next meeting president, Prof. Takehiko Kobayashi (University of Tokyo), will moderate, with Prof. Yoshinori Ohsumi (Institute of Science Tokyo) also participating.

This year's meeting does not feature high-profile entertainment; however, we believe that the symposia, mini-symposia, association- and conference-planned events, and forums are well-rounded. Online participation in the symposia is also available. Please consider joining symposiums from different or emerging fields. In MBSJ meeting, we typically see lively discussions during poster sessions, so we have opted not to assign discussants. We hope that natural exchanges will spark new research ideas and collaborations. Additionally, this year we are introducing a poster award for young researchers, and we thank those who applied for the award and the judges who took on the role. Secondary evaluation will take place on-site, so we appreciate your continued support. Also, please participate in our photo contest and cast your votes.

The conference abstracts are now accessible, with 146 symposium sessions, 18 forums, and about 3,000 poster presentations. Reviewing these in advance may help you navigate the sessions efficiently on-site. Many companies will also be exhibiting, and we will again hold our popular stamp rally, which we hope you will participate in to discover the latest in their products.

This year's annual meeting incorporates a hybrid format, so even those unable to travel to Fukuoka can join online. While online participants cannot view on-site poster presentations, you will have access to the online poster presentations on Tuesday, November 26, and the symposium sessions from November 27–29, so please participate! Undergraduate students can attend free of charge, regardless of membership status, so we encourage undergraduate students in your lab to join online or in person if they are nearby.

Let's work together to elevate life sciences !

President of MBSJ2024

Hiroshi Kimura

(Institute of Integrated Research, Institute of Science Tokyo)

*The university has been rebranded as Science Tokyo since October.

【プログラム】

シンポジウム

ポスター

フォーラム

キャリアパス委員会企画
研究倫理委員会企画
通常総会
バイオテクノロジーセミナー
バイテクショートセミナー
出展者セミナー
高校生研究発表
市民公開講座
機器・試薬・書籍等附設展示会

◆科学研究費助成事業の最近の動向

日 時：11月27日(水) 19：15～20：30
会 場：第14会場（マリンメッセ福岡 B館2階 会議室1-1）・オンライン

◆特別研究員事業の最近の動向

日 時：11月27日(水) 19：15～20：30
会 場：第15会場（マリンメッセ福岡 B館2階 会議室1-2）・オンライン

◆EMBO-JSPS-HFSP から若手研究者へのメッセージと奨学金制度

日 時：11月28日(木) 11：30～12：45
会 場：第8会場（福岡国際会議場4階414）・オンライン

◆ASBMB-MBSJ 合同シンポジウム

2PS-16「発生や疾患を制御する機能性 RNA」
日 時：11月28日(木) 16：45～19：00
会 場：第16会場（マリンメッセ福岡 B館2階 会議室2-1）・オンライン

◆研究費の現状と課題

日 時：11月28日(木) 19：15～20：30
会 場：第1会場（福岡国際会議場5階501）・オンライン

◆市民公開講座

「生命科学の今と未来」
日 時：11月29日(金) 17：40～19：00
会 場：第9会場（福岡国際会議場3階 メインホール）・オンライン

◆サテライトイベント

EMBO Laboratory Leadership Course 2024 in Fukuoka
日 時：11月30日(土)
会 場：国際会議場409+410
※年会終了後、翌日の開催となります。
詳細は以下 URL よりご確認ください。
<https://sites.google.com/view/embo-lab-course-2024/jp>

◆キャリアパス委員会企画

キャリアパス委員会主催ランチタイムセミナー 2024
・「この人たちに聞こう！キャリア形成と本音」
日 時：11月27日(水) 11：30～12：45

会 場：第 12 会場（福岡国際会議場 2 階 203）・オンライン

・「研究生活、天国ですか？地獄ですか？」

日 時：11 月 29 日(金) 11：30～12：45

会 場：第 12 会場（福岡国際会議場 2 階 203）・オンライン

◆研究倫理委員会企画

研究倫理ランチョンセミナー

・「最近の学術論文の動向：フェイク論文が増えている？学術的品質保証の必要性」

日 時：11 月 28 日(木) 11：30～12：45

会 場：第 12 会場（福岡国際会議場 2 階 203）・オンライン

◆第 47 回通常総会

日 時：11 月 27 日(水) 19：15～20：15

会 場：第 6 会場（福岡国際会議場 4 階 411+412）

※会場では軽食をご用意いたします。（先着順 / 数に限りがありますこと、ご了承ください）

※現地開催のみとなります。

◆出展者セミナー

出展者のショートプレゼンテーションを行います。最新機器、試薬などの情報を入手されたい方は是非、ご参加ください。

◆高校生研究発表

ぜひ、未来の分子生物学を担う高校生の研究発表をご覧ください、激励の声をかけてください。

日 時：11 月 29 日(金) 12：55～14：55

口頭発表：12：55～13：55 ポスター発表：13：55（口頭発表終了後）～14：55

会 場：マリンメッセ福岡 A 館 1 階 ポスター・展示会場

※現地開催のみとなります。

【開催形式】

◆オンライン開催（11 月 26 日(火)）※希望ポスター発表のみ

開催形式：Zoom ライブ配信

◆現地開催（11 月 27 日(水)～ 29 日(金)）

指定・公募シンポジウム、フォーラム、ポスター発表、高校生発表

シンポジウムのみオンラインのライブ配信を行います（オンデマンド配信はありません）。ただし、発表については原則現地で実施いただけますようお願いいたします。

【参加登録に関するご案内】

早期参加登録は 10 月 1 日(火)に締め切りました。以降の参加登録は下記要領にて受付いたします。

〈後期-当日参加登録〉

1. オンライン登録

・受付期間：10 月 10 日(木)～11 月 29 日(金)

・受付方法：年会ホームページの「参加登録」ページよりお申し込みください。

・参加登録費決済方法：クレジットカード決済のみ

2. 当日参加受付での登録

- ・受付期間：11月27日(水)8:00～17:00
11月28日(木)8:30～17:00
11月29日(金)8:30～17:00
- 場 所：福岡国際会議場1階エントランスホール
- ・参加登録費決済方法：現金のみ

その他、参加手続きに関する詳細は、年会ホームページをご確認ください。

<https://www.aeplan.jp/mbsj2024/>

◆参加登録費

区分	早期参加登録	後期-当日参加登録 ※演題投稿不可
登録受付期間	7/1～10/1	10/10～11/29
正会員	13,000 円	20,000 円
学生会員	3,000 円	4,000 円
学部学生 (会員・非会員問わず)	0 円 ※一般演題投稿希望者は「学生会員」、もしくは「非会員（一般演題投稿あり）」での参加登録が必須	0 円
非会員 (一般演題投稿なし)	22,000 円	30,000 円
非会員 (一般演題投稿あり)	30,000 円	

参加登録費の税区分：会員は不課税、非会員は税込
年会参加費に飲食費は含まれません

※プログラム検索・要旨閲覧システムの代金はすべてのカテゴリーの年会参加費に含まれています。

※後期-当日参加登録の参加費支払い方法は、オンライン登録でのクレジット決済、もしくは当日参加受付での現金による支払いのみとなります。銀行振込は選択できませんので、ご注意ください。

※シニア会員と次世代教育会員につきましても、参加登録システムからのお申し込みをお願い申し上げます。

【プログラム検索・要旨閲覧サイト】

プログラム検索・要旨閲覧サイト（オンライン視聴サイトを含む）は、年会ホームページよりご確認ください。
本年会では、Web システムのみを採用し、アプリの作成はいたしませんので、ご注意ください。

オンラインにて参加登録された方は、そちらのログイン ID、パスワードにて要旨閲覧サイトにアクセスいただけます。
当日会場受付にて参加登録をされた方には、受付にてアクセス方法をお伝えいたします。
年会ホームページ（<https://www.aeplan.jp/mbsj2024/>）よりアクセスしてください。

【参加章（ネームカード）・ポケットプログラム郵送廃止のお知らせ】

従来、10月初旬までの早期オンライン参加登録をされた方を対象に、参加章・ポケットプログラム等の郵送対応を行っていましたが、本年は実施いたしません。

◆参加章

オンライン参加登録システム Confit より、参加章の PDF がダウンロードいただけます。参加章 PDF を各自印刷して会場にご持参ください。ネームホルダーは会場にて配布いたします。

※会場で無記名の参加章お渡しも可能ですが、混雑が予想されますので、事前の印刷をお願いいたします。

※会場で当日参加受付での登録をされる場合、参加章は受付にてお渡しいたします。

◆ポケットプログラム

当日会場にて配布いたします。事前の郵送はいたしませんので、ご了承ください。

【全体日程表】

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
11/26 (火)	オンラインポスター 発表・討論 9：00-11：00 オンラインポスター 発表・討論 13：00-15：00 オンラインポスター 発表・討論 16：00-18：00													
11/27 (水)	シンポジウム (135 min) 9:00-11:15 ハイテク セミナー (50 min) 11:45-12:35 ミニ シンポジウム (80 min) 15:10-16:30 シンポジウム (135 min) 16:45-19:00 フォーラム (75 min) 19:15-20:30													
	キャリアパス 委員会企画 (75 min) 11:30-12:45 総会 19:15-20:15													
	貼付 展示会見学 11:15-12:55 ポスター発表・討論 12:55-14:55 撤去													
機器・試薬・書籍展示 10:00-17:00														
11/28 (木)	シンポジウム (135 min) 9:00-11:15 ハイテク セミナー (50 min) 11:45-12:35 ミニ シンポジウム (80 min) 15:10-16:30 シンポジウム (135 min) 16:45-19:00 フォーラム (75 min) 19:15-20:30													
	研究倫理 委員会企画 (75 min) 11:30-12:45													
	貼付 展示会見学 11:15-12:55 ポスター発表・討論 12:55-14:55 撤去													
機器・試薬・書籍展示 10:00-17:00														
11/29 (金)	シンポジウム (135 min) 9:00-11:15 ハイテク セミナー (50 min) 11:45-12:35 シンポジウム (135 min) 15:10-17:25 市民公開講座 (80 min) 17:40-19:00													
	キャリアパス 委員会企画 (75 min) 11：30-12：45 ミニシンポジウム (80 min) 15:10-16:30 シンポジウム (135 min) 16:45-19:00													
	貼付 展示会見学 11:15-12:55 ポスター発表・討論 高校生研究発表 12:55-14:55 撤去													
機器・試薬・書籍展示 10:00-15:00														

キャリアパス委員会主催 ランチタイムセミナー 2024

「この人たちに聞こう！キャリア形成と本音」

日 時：2024 年 11 月 27 日(水) 11：30～12：45（75 分）（年会初日）

会 場：福岡国際会議場 2 階 203（第 12 会場）・オンライン

司 会：三浦 恭子（熊本大学 大学院生命科学研究部（医学系））

●イントロダクション

三浦 恭子

●聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員

三浦 恭子（座長／熊本大）、甲斐 歳恵（阪大）、佐田 亜衣子（九大）、

來生（道下）江利子（第一三共）、武部 貴則（阪大／東京科学大学ほか）、胡桃坂 仁志（委員長／東大）

（登壇者紹介資料：https://www.mbsj.jp/admins/committee/careerpath/doc/2024/speakers_j.pdf）

本セミナーは研究者のキャリアと本音を探る企画です。キャリアパス委員会のさまざまなバックグラウンドを持つ研究者が登壇し、事前アンケートで皆さんからお寄せいただいた色々な質問に答えます。企画を純粹に楽しんで頂き、その中で何か気づきやヒントを得て頂ければ幸いです。

「研究生生活、天国ですか？地獄ですか？」

日 時：2024 年 11 月 29 日(金) 11：30～12：45（75 分）（年会 3 日目）

会 場：福岡国際会議場 2 階 203（第 12 会場）・オンライン

司 会：岩崎 由香（理化学研究所 生命医科学研究センター）

●イントロダクション

岩崎 由香

●聴衆参加型ディスカッション with キャリアパス委員

岩崎 由香（座長／理研）、井関 祥子（東京科学大学）、大川 恭行（九大）、鐘巻 将人（遺伝研）、

西山 朋子（京大）、平谷 伊智朗（理研）、胡桃坂 仁志（委員長／東大）

今、皆さんの研究生生活は充実していますか？ あるいは、「きつい」と感じていますか？

事前アンケートの回答結果をもとに現状を見つめ、会場の皆さんと議論します。「天国」と感じている方の理由を共有すると同時に、「地獄」と感じている方はその原因を分析し、そこから抜け出す方法を一緒に考えてみませんか？

※両日とも、参加者の皆様にご自身のスマートフォン・タブレット端末等から専用サイトへアクセスしていただき、ご意見などを会場のスクリーン及び Zoom Webinar でリアルタイム表示する「オーディエンスインタラクションツール (Slido)」を導入します。Zoom Webinar 経由でのコメント受付を行いませんので、オンライン参加の方も Slido でのコメント投稿をお願いいたします。

研究倫理委員会企画・研究倫理ランチョンセミナー

「最近の学術論文の動向：フェイク論文が増えている？学術的品質保証の必要性」

“Recent Trends in Scientific Papers: Are Fake Papers Increasing? How to Ensure Scientific Data Quality.”

日 時：2024 年 11 月 28 日(木) 11：30～12：45

会 場：福岡国際会議場 2 階 203（第 12 会場）＋オンライン

近年、科学技術の飛躍的な進歩と、最近では生成 AI の発達等も相まって、研究はスピーディーに進められ、サイエンスの発展に大きく貢献しています。しかしその一方で、生成 AI はフェイク論文の量産にも利用されている現実が明らかになってきています。今回の研究倫理ランチョンセミナーでは、研究倫理の専門家、Bernd Pulverer 博士にご講演を賜ります。Pulverer 博士は Nature の Editor や Nature Cell Biology の Chief Editor を長く務められ、現在、EMBO Press の Head であり、DORA（San Francisco Declaration on Research Assessment サンフランシスコ研究評価宣言）の co-founder のひとりで、研究倫理に関する問題に真正面から長年取り組んでおられます。Pulverer 博士が Head を務める EMBO では、データの品質管理が体系化され、問題論文を区別するシステムが整備され、これらのシステムは現在、科学論文の標準となっています。博士からは日々の経験から例を挙げて、データの品質保証についてご講演いただけます。原英二教授は、研究データの品質管理の問題について、ご専門の細胞老化関連分野で取り組んでおられ、バイアスのない誠実な研究結果を得るための方法等について、例を挙げながらご指導していただきます。

本セミナーでは、サイエンスの世界で最も重要な研究データの学術的品質保証の必要性とその実現について、演者を交えて議論できればと考えています。（Language: Japanese, Dr. Bernd Pulverer’s talk will be in English.）

●講演

Bernd Pulverer (Head, EMBO press/Chief Editor, EMBO Reports)（※日本語資料を配布予定）

原 英二（大阪大学微生物病研究所）

●パネルディスカッション

大谷 直子（座長）、二階堂 愛、三浦 正幸、吉村 昭彦、Bernd Pulverer、原 英二

●企画：日本分子生物学会 研究倫理委員会＋理事長

小安 重夫（委員長）、大谷 直子、二階堂 愛、三浦 正幸、吉村 昭彦（以上委員）

後藤 由季子（理事長）

学会誌『Genes to Cells』編集室よりお知らせ

日本分子生物学会学会誌『Genes to Cells』編集室より、以下の通りお知らせいたします。

① オンライン投稿サイトのリニューアルについて

2024年8月27日に、当誌のオンライン投稿サイトが新しくなりました。新 URL は <https://wiley.atyponrex.com/journal/GTC> です。新サイトは、AI を活用し、著者の作業負担をできる限り軽減する設計になっています。

この移行に伴い、重要な事項をまとめた特設ページを用意しております (https://www.mbsj.jp/gtc/new_submission_system.html)。QR コードもご利用ください。オンライン投稿サイトや操作マニュアルへのリンクもこちらのページに掲載しておりますので、ご確認ください。

なお、移行前にイニシャルバージョンが投稿された論文(論文 ID が GTC-24-0204 よりも小さい論文)は、今回の移行の対象外です。デシジョンレターに記載している方法で、従来のサイトからリビジョン版を投稿してください。

また、今回の移行は著者用ページのみが対象ですが、2025 年春には、査読者用および編集者用のサイトも含めて、全面的に新システムに移行する予定です。皆様にご迷惑をおかけしないよう、万全の準備を進めて参りますので、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。詳細は、同じ特設ページ内 (https://www.mbsj.jp/gtc/new_submission_system.html) でお知らせいたします。



② 2025 年第 1 号から年 6 回発行の continuous publication に移行、正式出版までの日数が大幅に短縮されます

当誌は、紙媒体廃止後も従来と同じワークフローでの制作を続けておりました。すなわち、各号は、その掲載論文のラインナップが確定してから正式出版される形を取っておりました。校了し、出版準備が整った論文は、まずオンライン先行出版されておりましたが (Early View)、正式な出版 (各号の出版) まではしばらくお待ちいただく必要がありました。

2025 年第 1 号からは、年 6 号発行の新しい出版方式「Continuous publication」に移行します。各号はラインナップが未確定の状態で「オープン」し、校了した論文はオープン中の号に順次収載され、即座に正式出版される形となります。これにより、早ければアクセプト後 1~2 週間での正式出版が実現します。どうぞご期待ください。

③ その他のお知らせ

当誌 Genes to Cells での通常の出版は無料です (正式出版後半年間のアクセスは有料) が、別途掲載料 (APC) をお支払いいただくことで、即時オープンアクセスとすることが可能です。APC には各種割引がございます。当会報の巻末に掲載している『Genes to Cells でおトクに出版』をご覧ください。

また、本年も第 47 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2024) のポスター・展示会場におきまして、表紙画の制作過程を紹介する展示を行います。表紙デザインを手がける(株)トライスによるオリジナルグッズ販売ブースも設置されますので、ぜひお立ち寄りください。

今後とも Genes to Cells をよろしくお願い申し上げます。

Genes to Cells 編集室
マネージングエディター
湯浅 達朗
office@genestocells.jp

第 48 回日本分子生物学会年会 開催のお知らせ（その 1）

会 期：2025 年 12 月 3 日(水)～5 日(金) ※現地開催のみ
会 場：パシフィコ横浜
年 会 長：小林 武彦（東京大学定量生命科学研究所）
演 題 登 録 期 間：2025 年 7 月 1 日(火)～ 7 月 31 日(木)※予定
早期参加登録期間：2025 年 7 月 1 日(火)～ 10 月 1 日(水)※予定
年会事務局連絡先：第 48 回日本分子生物学会年会事務局（株エー・イー企画 内）
〒 101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4 階
Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2025@aeplan.co.jp
年会ホームページ：<https://www.aeplan.jp/mbsj2025/>

【年会長の挨拶 その 1】

「この指とまれ」企画で盛り上がりよう！

こんにちは、小林武彦です。第 48 回年会長を仰せつかりました。

私は 4 年前の 44 回年会（塩見美喜子年会長 @ 横浜）の組織委員長を務めました。44 回年会はコロナ明けハイブリッド開催の第一回目で、状況次第ではオンラインのみになるというシビアな年会でした。スポンサー集め、抗原検査の無料提供、不測の事態に対する準備など、これまで経験したことのない大変なことがたくさんありました。しかしここで再開しないとこのまま分生の火が消えてしまうのではないかという危機感が、塩見年会長をはじめ役員を奮い立たせ、なんとか頑張れました。会を盛り上げるために分生応援ソング「毎日が PCR」もリリースしました（YouTube でご覧になれます）。

さてそれから 4 年が過ぎ、再びパシフィコ横浜に戻ってきました。こんなに楽しく年会を運営できる日がくるとは夢のようです。実は使用料の高騰によりパシフィコ横浜は 44 回年会が最後のはずでしたが、事務局が頑張ってください、今回（48 回）と次回（49 回）を 2 回続けてパシフィコと契約することで、大幅なデスカウントをゲットし、なんとかまた横浜開催を復活することができました。

今回は 6 年ぶりの対面のみの開催となります。海外からの参加者も含めて皆さんに横浜に来ていただきたいです。テーマは「この指とまれ “Let's gather here, in Yokohama!”」です。新しい出会いから革新的な研究のタネを作る「マッチング企画」を每晚展開いたします。「〇〇の研究をやりたい人この指とまれ」とか「留学先に悩んでいる人この指とまれ」「招待講演者の〇〇先生と〇〇について語りたい人この指とまれ」「科研費申請で悩んでいる人この指とまれ」「博士課程進学で悩んでいる人この指とまれ」のような感じで、初対面の人と知り合いになる企画をご提案ください。皆さんからあらかじめ「この指とまれ」企画を募り事前登録で 5 名を超えたら成立です。成立したグループには語り合う場としてテーブルとドリンクとおつまみを提供いたします。当日の飛び入り参加も OK です。夢を語り、仲間を作り、将来の革新的イノベーションにつながる場になれば幸いです。話しが盛り上がったら、引き続き keep in touch で共同研究の芽を育ててください。もちろんそのまま 2 次会に行ってもらってかまいません。この企画で運命的な出会いがあることを祈っております。

それでは役員一同、2025 年 12 月 3-5 日に皆さんとお会いするのを楽しみにしています。

第 48 回日本分子生物学会年会
年会長 小林 武彦
（東京大学定量生命科学研究所）

“Let’s Gather Together!”

Hello, I’m Takehiko Kobayashi, honored to serve as chair for the 48th Annual Meeting. Four years ago, I served as the organizational committee chair for the 44th Annual Meeting under Chairperson Mikiko Siomi in Yokohama. It was the first hybrid event post-COVID, with the possibility of an online-only event hanging in the balance. We faced unprecedented challenges, from securing sponsors and providing free antigen testing to preparing for any potential emergency. However, motivated by the fear that the spirit of biosciences might fade if we didn’t press forward, Chairperson Siomi and the board came together, ultimately releasing a motivational song, *Every Day is PCR* (available on YouTube), to inspire the community.

Four years later, here we are back at Pacifico Yokohama. It feels almost like a dream to be able to run this meeting with such enthusiasm. Initially, due to rising costs, it was assumed that the 44th Annual Meeting would be the last to be held here. Yet, through diligent negotiations, the Secretariat managed to secure significant discounts by booking both the 48th and 49th Meetings consecutively, allowing us to return to Yokohama.

This year, we’re excited to host the event in person only for the first time in six years, welcoming attendees, including our international colleagues, to Yokohama. The theme is “*Let’s Gather Here in Yokohama!*” and we are launching a new nightly “matching event” to spark connections that may lead to groundbreaking research. Propose ideas like “*Anyone interested in ____ research, gather here!*”, “*If you’re considering studying abroad, gather here!*”, “*Those wanting to discuss ____ with our guest speaker, gather here!*”, “*Need advice on a grant proposal? Gather here!*”, and even “*If you’re considering a PhD, gather here!*” We encourage proposals for these meet-and-greet sessions where those interested can register in advance. Groups with more than three participants will be provided with a table, drinks, and snacks. Walk-ins on the day of the event are also welcome.

We hope that this gathering will be a platform for everyone to share their dreams, find new collaborators, and perhaps spark innovations for the future. If conversations flow, keep the connection alive and nurture collaborative research. Of course, feel free to take these discussions into the evening’s second session!

On behalf of the entire committee, we look forward to meeting all of you from December 3–5, 2025.

President of MBSJ2025

Takehiko Kobayashi

(Institute for Quantitative Biosciences, The University of Tokyo)

【年会組織】

組織委員会

年 会 長：小林 武彦（東京大学定量生命科学研究所）

組 織 委 員 長：平田たつみ（国立遺伝学研究所）

プログラム委員長：沖 昌也（福井大学大学院工学研究科）

組 織 委 員：倉永英里奈（京都大学大学院薬学研究科／東北大学大学院生命科学研究科）

中山 潤一（基礎生物学的研究所）

【プログラム概要】

◆現地開催（12/3～5）

指定シンポジウム 10 企画、公募シンポジウム 100 企画程度、フォーラム、ポスター発表、高校生発表、市民公開講座

開催形式：本年会は現地開催のみとなります。オンラインでのライブ配信、オンデマンド配信はございません。

◆マッチング企画

「この指とまれ “Let's gather here, in Yokohama!”」

開催日時：12月3日(水)・4日(木) 19:15～20:30 (予定)

第48回年会では“新しい出会い”をテーマにした交流イベントを開催予定です。ポスター展示場内に特設ブースを設置し、事前に参加者から募集したアイデアの中から、採択されたトピックでイベントを開催していただく予定です。学術研究のみでなく、様々な情報交換／仲間づくりの場となることを目指しております。

※開催規模は1ブースにつき、5名以上を最小単位とし、最大20名程度を想定しております。

※モニター／マイクを用いたプレゼンを実施することも可能です。

※アルコール、ソフトドリンク、軽食等を配布予定です。

[テーマ募集について]

今回募集するテーマは学術的なトピックに限らず、幅広いテーマの応募が可能です。

是非、沢山のアイデアをお寄せください。(応募開始時期：2025年2月下旬～)

テーマ例：

- の研究をやりたい人この指とまれ
- 留学先に悩んでいる人この指とまれ
- 招待講演者の○○先生と○○について語りたい人この指とまれ
- 科研費申請で悩んでいる人この指とまれ
- 博士課程進学で悩んでいる人この指とまれ
- 今日が学会デビューの人！このゆーびとーまれ
- 大型研究費にトライする人集まれ！
- 生物を愛してやまない会（例：マイナー生物好き集まれ！）
- と科学を愛する会（例：日本酒と科学を愛する会）
- の共同研究をしたい！（共同研究、産学官連携）

◆指定シンポジウム（10企画予定）

指定シンポジウムについては、以下10企画の開催を予定しております。

1. 細胞老化研究が導く生命科学の理解 / Understanding Life Sciences Through Cellular Senescence Research

オーガナイザー：高橋 暁子（がん研究会）、小林 武彦（東京大学）

Organismal aging is an unavoidable fate that humanity has faced since ancient times, and it remains a mystery that continues to fascinate many researchers. In recent years, the importance of cellular senescence as a fundamental mechanism of organismal aging has been revealed, and its connection to age-related diseases and functional decline is gradually becoming clearer. In this symposium, we will discuss the latest topics in cellular senescence research with scientists who are striving to understand life sciences through the advancement of research in cellular senescence.

2. 個体発生・疾患におけるエンハンサー研究の最前線 / Enhancer function in development and disease

オーガナイザー：斉藤 典子（がん研究会）、深谷 雄志（東京大学）

Enhancers are non-coding regulatory DNA elements that control the temporal and spatial specificity of gene transcription in development. Recent whole genome studies suggest that enhancer polymorphism is highly associated with phenotypic variations and disease risks among populations. Therefore, addressing the question of how enhancers function in development and disease has become increasingly important. In this symposium, we will discuss emerging models of transcriptional regulation by enhancers.

3. 細胞分化の観点から探る神経系の進化 / Evo-devo of the nervous system from a cellular perspective

オーガナイザー：平田 たつみ（国立遺伝学研究所）、Yan Zhu（国立遺伝学研究所）

Researchers have long studied nervous system cells, initially focusing on morphology and function, and later on molecular characteristics. Recent advancement in genomics, especially high-throughput single-cell genomics, open the door to addressing fundamental questions on the development and evolution of the nervous system, such as the origin of the first neuron, and the conservation and the diversification of cell types. At this symposium, experts will share their findings on these topics, combining insights from developmental and evolutionary biology, studying non-model organisms, and using single-cell technologies and comparative genomics with new computational methods.

4. ヒトの脳発生と機能研究の最前線 / Frontier Research on mechanisms underlying the evolution of human brain

オーガナイザー：鈴木 郁夫（東京大学）、岩田 亮平（VIB-KU Leuven）

Humans have evolved outstanding cognitive abilities by enlarging and complexifying their cerebral cortex. In this symposium, we will invite leading scientists who utilize state-of-the-art technologies in the field to approach human brain evolution. Through sharing recent findings and discussing with international experts, we aim to enhance our understanding of the molecular and cellular mechanisms that drive human brain evolution.

5. 生命の萌芽の構築と理解 / Build and See: Toward Understanding the Nascence of Life.

オーガナイザー：林 克彦（大阪大学）・斎藤 通紀（京都大学）

Recent advances in technologies for in vitro culture systems, genome editing, and live imaging are leading us to new horizons in developmental biology and medicine. This symposium will highlight how these advances, particularly through approaches involving the reconstitution of biological processes followed by investigation, are deepening our understanding of germline formation and early embryogenesis.

6. 多細胞的に振る舞う単細胞生物の巧妙な戦略—細胞間コミュニケーションと生存のメカニズム / Multicellular behavior through intraspecies cell-cell communication in unicellular microorganisms

オーガナイザー：八代田 陽子（理化学研究所）、沖 昌也（福井大学）

Unicellular organisms have been conventionally thought to conduct their life activities independently within each cell. However, there have been many reports of their multicellular behavior due to cell-cell communication mediated by various substances. This symposium will explore collective behavior of the unicellular microorganism yeast, driven by intraspecies cell-cell communication, and present techniques for metabolite and single-cell analysis to uncover the underlying mechanisms. We will also discuss the survival strategies of unicellular organisms.

7. メカノバイオロジー劇場：力学的なシグナルの舞台裏 / The Mechanobiology Theater: Behind the Scenes of Mechanical Signals

オーガナイザー：茂木 文夫（北海道大学）、倉永 英里奈（京都大学）

This symposium delves into the forefront of mechanobiology, examining how cells and tissues sense and respond to mechanical forces. The speakers will present diverse perspectives on topics such as cellular mechanosensing, tissue morphogenesis, and cell movement. Emphasis will be placed on the integration of mechanical signals into cellular processes, including cell fate decisions, polarity, and tissue development. Insights from plants, animals, and cutting-edge live imaging will be discussed, shedding light on the role of mechanical forces across different biological systems.

8. 進化の限界と可能性 / Limitation in Evolution and its Evolvability

オーガナイザー：入江 直樹（総合研究大学院大学）、土松 隆志（東京大学）

Evolution does not occur freely in any direction, but it is always biased and constrained. What explains these phenomena? These limitations arise not only from external factors such as natural selection, but also from intrinsic factors, such as the developmental system. In this symposium, we will be overiewing potential factors and mechanisms behind the limited evolution in various organisms including plants and animals. Understanding the mechanism of this limited evolution may pave the way to introducing a predictive aspect to modern evolutionary theory.

9. 超階層生物学：新しいモデル生物を用いた新展開 / Trans-Scale Biology: Exploring New Frontiers with Novel Model Organisms

オーガナイザー：重信 秀治（基礎生物学研究所）、佐竹 暁子（九州大学）

Recent advances, such as genome editing, sequencing, omics, and imaging, have enabled biologists to explore life science at multiple scales—from molecules and cells to organs, individuals, and ecosystems— through an approach termed as “Trans-Scale Biology.” This approach now extends to the use of non-traditional model organisms. This symposium aims to promote the exchange of ideas and discoveries across species and research disciplines, highlighting the potential of Trans-Scale Biology.

10. 細胞運命決定を担うクロマチンのエピコードの解読 / Deciphering the epicode of chromatin controlling cell fate decisions

オーガナイザー：立花 誠（大阪大学）、中山 潤一（基礎生物学研究所）

Chromatin plays a key role in the regulation of gene expression. However, it is unclear how gene expression during development and differentiation is regulated through chromatin structure to determine the cell fate. A higher-order chromatin structure organized by multiple regulatory layers in specific cell types can be an acquired code, or “epicode”. We are aiming to reveal how epicode is established and defines the cell fate.

◆公募シンポジウム（約 100 企画予定）

現地開催にて公募シンポジウムを開催します。

会員より企画を公募しますので、後述の募集要項をご参照の上、奮ってご応募ください。

◆一般演題（公募シンポジウム口頭発表・ポスター）

公募シンポジウムでは一般演題から演題を採択いただきます（ミニシンポジウムでは一般演題からの採択は必須ではありません）。演題投稿の受付開始は 2025 年 7 月 1 日(火)を予定しております。詳細は 2 月発行予定の次回会報、および年会ホームページにてご案内いたします。多くの皆様からの演題投稿をお待ちしております。本年会では一人一演題の登録を原則とし、複数演題発表は認められません。

◆高校生発表

最終日午後（12 月 5 日(金)）に、高校生による研究発表を予定しています。

◆バイオテクノロジーセミナー

企業との共催によるランチョンセミナーを開催いたします。

◆その他の企画

その他の企画は詳細が決まり次第、年会ホームページにてご案内いたします。

【公募シンポジウムの企画公募について（1 月 31 日(金)受付締切）】

本年会では、公募シンポジウムの企画を会員の皆さまより公募いたします。ご提出いただいた企画案は、プログラム委員会において厳正なる審査を行い、採否を決定します。採否結果は 2 月下旬に応募者へご連絡いたします。下記要項をご確認のうえ、奮ってご応募ください。

◆募集要項

◆募集枠

- 約 100 テーマを採択する予定です。
 - ※ 120 分枠のシンポジウムと 80 分枠のミニシンポジウムがあります。
 - ※ 120 分枠のシンポジウムでは一般演題から演題を採択いただきます。
 - ※ 120 分枠のシンポジウムへの応募が 80 分枠で採択される場合もあります。

◆講演言語

- 講演言語はオーガナイザーに一任いたしますが、英語または日本語のみに統一をお願いいたします。特に、英語セッションに日本語の発表を採択することは避けてください。
- 発表スライドは講演言語にかかわらず、全演者に英語での作成をお願いいたします。専門用語などについては、スライドや口頭で補助的に日本語を使用することを推奨いたします。

◆演者と演題

- 120分枠のシンポジウムは、一般演題からの採択を必須といたします。複数演題の採択をお願いいたします。(80分枠のミニシンポジウムでは一般演題からの採択は必須ではありません)。
- 企画提案いただくオーガナイザーは1名でも2名でも構いませんが、少なくとも1名は分子生物学会の会員であることが必須です。
- 指定演者のうち70%以上を特定のジェンダーとしないよう、構成をお願いいたします。
- 若手研究者や海外演者がオーガナイザーや指定演者に含まれる企画を優先して採択いたします。
- シンポジウムのテーマについて、新規性が高いものを優先して採択いたします。
- 本年会では一人一演題の登録を原則とし、複数演題発表は認められません。

◆参加費、旅費の支援等

- 海外、国内を問わず、非会員指定演者の参加費は免除といたします。
- 会員・非会員を問わず、国内演者の旅費・滞在費・宿泊費の支給はありません。
- 海外演者をオンサイトで招聘する場合には、年会から旅費(1名:1企画につき10万円、2名以上:1企画につき20万円)・宿泊(年会指定のホテルでの最大4泊分)を支給いたします(国内演者への旅費・滞在費・宿泊費の支給はありません)。
- 冠企画の場合は旅費支援、宿泊手配の対象外といたします。

◆新学術領域、学術変革領域、CREST、さきがけ等との共催セッション

新学術領域、学術変革領域、CREST、さきがけ等の「冠」企画の実施も可能とします。

- 講演枠: 120分・80分枠で実施予定
- 演者選定: 班会議と同様の企画にならないよう、領域外の講演者を必ず含めてください。一般演題からの採択を必須といたします。
- 協賛金: 120分枠: 25万円、80分枠: 10万円の協賛金の負担をお願いいたします。
(ホームページやプログラム集に冠表記を記載いたします)

◆小規模研究会等 共催セッション(ミニシンポジウム)

小規模研究会や小規模学会の共催セッションを募集いたします。多様な分野からの活発なご参加をお待ちしております。

- 講演枠: 80分枠で実施予定
- 演者選定: 一般演題から採択の必要はなく、指定演者のみの構成にて問題ございません。
- 協賛金: 上記の「冠企画」とは異なり、冠表記について協賛金の負担は必要ございません。
※ただし、他の公募シンポジウムと同様に120分枠を希望される場合は、25万円の協賛金負担をお願いいたします。

◆応募要領

年会ホームページより専用の応募サイトにアクセスし、1月31日(金)までに下記の必要情報をご登録ください。

- 1) 開催言語（日本語 or 英語・オーガナイザーが選択）
- 2) タイトル（和文・英文 必須）
- 3) オーガナイザーの氏名・所属（和文・英文）・年代・職位
- 4) 概要（和文・英文／和文全角 200 文字程度・英文半角 400 文字程度）
- 5) 予定演者の氏名・所属・職位（および、知りうる限りで、年代）。応募時点での演者による講演承諾は不要です。
- 6) 連絡窓口となるオーガナイザーの氏名、連絡先
- 7) 「1. 対象・現象など」「2. 方法など」の分類からそれぞれ2つを選択（次頁の表参照）、3つのキーワード
- 8) 予想される聴衆数
- 9) 冠の有無、団体名

※企画の採否ならびに開催枠の割振りはプログラム委員会で最終決定いたしますので、希望に沿えない可能性もございますこと、ご了承ください。

※企画採択されたオーガナイザーには、該当分野の一般演題の編成等を併せてお願いする場合があります。

1. 対象・現象など

大項目		小項目	
1	分子	a	遺伝子・核酸
		b	ゲノム情報
		c	DNA 複製
		d	組換え・変異・修復
		e	エピジェネティクス・クロマチン
		f	転写
		g	RNA・RNP
		h	翻訳
		i	タンパク質（構造）
		j	タンパク質（機能）
		k	糖・脂質・代謝産物
		l	分子進化・比較ゲノム
		m	その他
2	細胞	a	染色体・核構造体
		b	相分離
		c	タンパク質プロセッシング・輸送・局在化
		d	細胞質膜オルガネラ
		e	細胞接着・細胞運動・細胞外基質
		f	生体膜・細胞骨格
		g	細胞増殖・分裂・周期
		h	シグナル伝達（翻訳後修飾）
		i	シグナル伝達（生理活性物質）
		j	細胞老化・細胞死
		k	その他

大項目		小項目	
3	発生・再生	a	器官・形態形成・再生
		b	幹細胞
		c	細胞分化
		d	初期発生
		e	生殖
		f	その他
4	高次生命現象・疾患	a	共生・寄生
		b	生物リズム・生物時計・睡眠
		c	脳・神経系・神経発生・構造
		d	脳・神経系・行動
		e	脳・神経系・疾患
		f	免疫・炎症
		g	感染・ウイルス・ワクチン
		h	老化
		i	がん細胞
		j	がん組織・がん治療
		k	代謝・栄養
		l	遺伝性疾患
		m	植物
		n	マクロ生物学・生態
		o	その他

2. 方法など

i	核酸工学・ゲノム編集
ii	タンパク質工学
iii	ゲノム工学・細胞工学
iv	発生工学・オルガノイド
v	光遺伝学・電気生理学
vi	システム生物学
vii	合成生物学
viii	ケミカルバイオロジー
ix	構造生物学（X線結晶構造解析・クライオ EM）
x	機能予測・薬物設計
xi	バイオインフォマティクス
xii	オミクス解析

xiii	シングルセル解析
xiv	イメージング
xv	超解像・特殊イメージング法
xvi	画像解析・バイオイメージインフォマティクス
xvii	病因解析・診断
xviii	個体行動解析
xix	スクリーニング
xx	ロボット・ラボラトリーオートメーション
xxi	深層学習・機械学習
xxii	数理モデル・シミュレーション
xxiii	その他

◆お問合せ先

第 48 回日本分子生物学会年会事務局（株エー・イー企画 内）

〒101-0003 東京都千代田区一ツ橋 2-4-4 一ツ橋別館 4 階

Tel: 03-3230-2744 Fax: 03-3230-2479 E-mail: mbsj2025@aeplan.co.jp

【日程表（予定）】

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
12月3日 (水)	シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		バイテクセミナー (50 min) 12:20-13:10		シンポジウム (120 min) 13:40-15:40		フォーラム (75 min) 19:15-20:30							
	シンポジウム (80 min) 9:00-10:20		シンポジウム (80 min) 10:35-11:55		学会企画 (75 min) 12:10-13:25									
	ポ 貼 ス 付 タ ！								サイエンスビッチ 16:00-17:00 展示会見学		ポスター発表・討論 (120 min) 17:00-19:00		ポ ス タ ー ！ 撤 去 マッチング企画 (75 min) 19:15-20:30	
機器・試薬・書籍展示 11:00-19:00														
12月4日 (木)	シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		バイテクセミナー (50 min) 12:20-13:10		シンポジウム (120 min) 13:40-15:40		フォーラム (75 min) 19:15-20:30							
	シンポジウム (80 min) 9:00-10:20		シンポジウム (80 min) 10:35-11:55		学会企画 (75 min) 12:10-13:25									
	ポ 貼 ス 付 タ ！								サイエンスビッチ 16:00-17:00 展示会見学		ポスター発表・討論 (120 min) 17:00-19:00		ポ ス タ ー ！ 撤 去 マッチング企画 (75 min) 19:15-20:30	
機器・試薬・書籍展示 11:00-19:00														
12月5日 (金)	シンポジウム (120 min) 9:00-11:00		バイテクセミナー (50 min) 12:20-13:10		シンポジウム (120 min) 13:40-15:40		市民公開講座 (75 min) 19:15-20:30							
	シンポジウム (80 min) 9:00-10:20		シンポジウム (80 min) 10:35-11:55		学会企画 (75 min) 12:10-13:25									
	ポ 貼 ス 付 タ ！								サイエンスビッチ 16:00-17:00 展示会見学		ポスター発表・討論 (120 min) 17:00-19:00 高校生研究発表 17:00-19:00		ポ ス タ ー ！ 撤 去	
機器・試薬・書籍展示 11:00-19:00														

※あくまで2024年11月時点での予定であり、今後変更される可能性があります

第 24 期理事選挙結果のご報告

2024 年 11 月

会員各位

特定非営利活動法人 日本分子生物学会

過日、実施されました、第 24 期理事選挙につきまして、以下の通りに投票結果をご報告いたします。(第 24 期理事の任期は 2025 年 1 月から 2026 年 12 月までの 2 年間です)

- 選挙公示日 2024 年 6 月 10 日(月) (会報 139 号発送)
- 投票期間 2024 年 6 月 20 日(木) 10:00~7 月 10 日(木) 17:00
- 開票日 2024 年 7 月 11 日(木)
- 開票場所 日本分子生物学会事務局
- 開票立会人 第 24 期理事選挙・選挙管理委員会
(大杉美穂委員長、末次正幸委員、田尻怜子委員)
- 有権者数 10,647 名
- 投票者数 1,263 名
- 投票総数 12,630 票 (うち白票 4,417 票)

○ 当選者 (50 音順)

阿形 清和 (基生研)	塩見美喜子 (東大・理)
五十嵐和彦 (東北大・医)	高橋 淑子 (京大・理)
石黒啓一郎 (熊本大・発生研)	中島 欽一 (九大・医)
石谷 太 (阪大・微研)	中西 真 (東大・医科研)
上村 匡 (京大・生命)	中山 敬一 (Science Tokyo・総合研究院)
大谷 直子 (大阪公大・医)	中山 潤一 (基生研)
鐘巻 将人 (遺伝研)	二階堂 愛 (理研・BDR/Science Tokyo・総合研究院)
木村 宏 (Science Tokyo・総合研究院)	濡木 理 (東大・理)
糸 昭苑 (Science Tokyo・生命理工学院)	林 克彦 (阪大・医)
倉永英里奈 (京大・薬 / 東北大・生命)	原 英二 (阪大・微研)
胡桃坂仁志 (東大・定量研)	東山 哲也 (東大・理)
後藤由季子 (東大・薬)	三浦 恭子 (熊本大・生命)
近藤 滋 (阪大・生命)	三浦 正幸 (東大・薬)
斎藤 通紀 (京大・医)	山本 卓 (広島大・統合生命)
佐田亜衣子 (九大・生医研)	吉森 保 (阪大・医)

以上 30 名

- 本選挙において、細則第 2 条 5) (⇒得票数上位 30 名の中に 6 名以上の女性が含まれなかった場合は、繰上げ当選調整を行う選挙ルール) の適用はありませんでした。ご報告します。

○ 第 24 期理事長選任について

2024 年 10 月 2 日、東京で開催されました第 24 期新理事会準備会議において、木村宏氏 (Science Tokyo・総合研究院) が第 24 期理事長 (任期: 2025 年 1 月より 2 年間) に選出されましたので、ご報告いたします。

学術賞、研究助成の本学会推薦について

本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞、研究助成は、会報 No.139 (6月号) および学会 HP に一覧として掲載しております。そのうち、応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての本学会からの推薦は、賞推薦委員会または研究助成選考委員会の審査に従って行います。応募希望の方は、直接助成先に問い合わせ、申請書類を各自お取寄せのうえ、ふるってご応募下さい。

本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出物

- 1) 本申請に必要な書類 (オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー)
- 2) 本学会の選考委員会審査用に、上記申請書類のコピー 1 部
- 3) 論文 (別刷は各種財団等応募先の必要部数をご用意下さい。委員会用の論文は不要です)
- 4) 上記 1) 2) 3) の送付とは別に、学会用控として申請書の電子データ (論文は不要) を学会事務局 (info@mbsj.jp) まで送信して下さい。
電子データは Word、PDF ファイルのいずれでも結構です。
*必ず学会の締切日までに郵送資料と電子データの両方が到着するようにご手配下さい。

2. 提出先

※賞推薦についての送付先

日本分子生物学会・賞推薦委員長 齊藤 典子
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

※研究助成についての送付先

日本分子生物学会・研究助成選考委員長 杉本 亜砂子
〒102-0072 千代田区飯田橋 2-11-5
人材開発ビル 4 階
日本分子生物学会事務局気付

3. 提出期限

財団等の締切りの 1 カ月前まで。提出期限後に受取った場合や、提出書類が不備な場合は、選考の対象にならないことがあります。推薦手続きのことでご不明な点がございましたら、学会事務局までお問い合わせ下さい。

※研究助成 (学会推薦) に関する留意事項

学会推薦した会員が財団等の研究助成対象者となった場合には、その研究成果を将来、学会誌「Genes to Cells」に論文あるいは総説として発表して頂くように要請いたします。

応募に際しては、その旨をご了解くださるようお願いいたします。

※各種学術賞 (学会推薦) に関する留意事項

- 委員会の内規により、外部財団等の各種学術賞への推薦は、原則として一人につき年度あたり 1 件となっておりますので、ご了解ください。
(本学会の事業年度は 10 月 1 日から翌年 9 月 30 日までです)
- 重複申請があった場合、すでにある賞等の推薦が決定されている候補者は、それ以降審査する他の賞等の推薦候補者として原則的に考慮いたしません。応募に際し、ご留意くださるようお願いいたします。

第23期役員・幹事・各委員会名簿

理事長

(任期：2023年1月1日～2024年12月31日)

後藤由季子（東大・薬）

副理事長

見學美根子（京大・iCeMS）、塩見 春彦（慶應大・医）

理事

阿形 清和（基生研）

大谷 直子（大阪公大・医）

岡田 由紀（東大・定量研）

鐘巻 将人（遺伝研）

加納 純子（東大・総合文化）

木村 宏（Science Tokyo・総合研究院）

胡桃坂仁志（東大・定量研）

小林 武彦（東大・定量研）

小安 重夫（量研・QST）

斉藤 典子（がん研）

白髭 克彦（東大・定量研）

杉本亜砂子（東北大・生命）

高橋 淑子（京大・理）

中川 真一（北大・薬）

中島 欽一（九大・医）

中西 真（東大・医科研）

中山 敬一（Science Tokyo・総合研究院）

二階堂 愛（Science Tokyo・総合研究院 / 理研・BDR）

仁科 博史（Science Tokyo・総合研究院）

濡木 理（東大・理）

深川 竜郎（阪大・生命）

三浦 恭子（熊本大・生命）

三浦 正幸（東大・薬）

水島 昇（東大・医）

柳田 素子（京大・医）

吉田 稔（理研 / 東大・農）

吉村 昭彦（理科大・生命医科学研）

(五十音順)

監事

佐々木裕之（九大・生医研）、塩見美喜子（東大・理）

幹事

庶務幹事 岡田 由紀（東大・定量研）、中川 真一（北大・薬）

会計幹事 東山 哲也（東大・理）

編集幹事 上村 匡（京大・生命）

広報幹事 木村 宏（Science Tokyo・総合研究院）

国際化担当幹事 深川 竜郎（阪大・生命）

第23期執行部

後藤理事長、見學副理事長、塩見副理事長、岡田庶務幹事、中川庶務幹事、木村広報幹事

Genes to Cells 編集長

西田栄介（理研・BDR）

賞推薦委員会

斉藤典子（委員長）、加納純子、中島欽一、水島 昇、吉田 稔

研究助成選考委員会

杉本亜砂子（委員長）、阿形清和、白髭克彦、濡木 理、柳田素子

国際会議支援・選考委員会

小林武彦（委員長）、高橋淑子、中西 真、中山敬一、仁科博史

キャリアパス委員会

胡桃坂仁志（委員長）、井関祥子、岩崎由香、大川恭行、甲斐歳恵、鐘巻将人、
來生（道下）江利子、佐田亜衣子、武部貴則、西山朋子、平谷伊智朗、三浦恭子

研究倫理委員会

小安重夫（委員長）、大谷直子、二階堂愛、三浦正幸、吉村昭彦

生命科学教育

篠原 彰

日本分子生物学会 賛助会員一覧

(2024 年 11 月現在)

アサヒグループホールディングス株式会社
株式会社エー・イー企画
一般財団法人化学及血清療法研究所
科研製薬株式会社 新薬創生センター
コスモ・バイオ株式会社
株式会社 seeDNA 法医学研究所
第一三共株式会社
タカラバイオ株式会社 事業開発部
株式会社ダスキン 開発研究所
中外製薬株式会社
株式会社東海電子顕微鏡解析
東洋紡株式会社 バイオプロダクト営業部
株式会社トミー精工
ナカライテスク株式会社
日本甜菜製糖株式会社 総合研究所第二グループ
浜松ホトニクス株式会社 システム営業部
富士レビオ株式会社 研究推進部 バイオ研究グループ
フナコシ株式会社
三菱ケミカル株式会社
ヤマサ醤油株式会社 R&D 管理室
湧永製薬株式会社 研究管理部研究管理課

(21 社、50 音順)

■第 47 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2024)

公式ウェブサイト

<https://www.aeplan.jp/mbsj2024/>

X (旧 Twitter) アカウント

https://x.com/mbsj_2024/

■第 48 回日本分子生物学会年会 (MBSJ2025)

公式ウェブサイト

<https://www.aeplan.jp/mbsj2025/>

■日本分子生物学会

公式ウェブサイト

<https://www.mbsj.jp/>

Facebook アカウント

<https://www.facebook.com/mbsj1978/>

X (旧 Twitter) アカウント

https://x.com/MBSJ_official



特定非営利活動法人

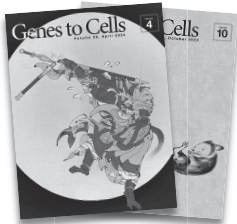
日本分子生物学会 事務局

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋 2-11-5

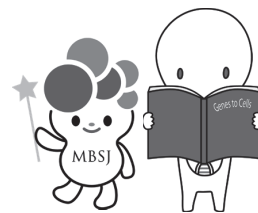
人材開発ビル 4 階

TEL: 03-3556-9600 FAX: 03-3556-9611

E-mail: info@mbsj.jp



Genes to Cellsで おトクに出版



費用をかけずに
論文を出したい

Genes to Cellsでの論文出版は
原則として**無料**です！

このとき、最初の6ヶ月間は有償アクセス※1
ですが、その後は無償公開されます！

※1：論文が掲載された号の出版日から起算し6ヶ月間。
なお、分子生物学会員は無償アクセス可能です。手続
方法は右の二次元コードからご確認ください。



即時オープンアクセス
(OA) で出版する必要
がある

Hybrid Journalなので、**即時のOAも選択可能**です。
この場合、**APC（掲載料）※2**をお支払いいただく
必要がありますが、各種割引があります。
下のフローチャートを参照してください。

※2：3,800米ドル（2024年4月現在）

APC（掲載料）割引 フローチャート

お気軽にお問い合わせください
Genes to Cells編集室
office@genestocells.jp

責任著者の所属機関が
Wiley社と転換契約を
結んでいる※3

Yes

大幅な割引が適用されます。

手続き方法の詳細・自己負担額は、
所属機関にご確認ください。

No

著者のうち1人以上が
分子生物学会の会員

Yes

会員割引※4 が利用可能です。

アクセプト後に、会員氏名と会員番号を
編集室へお知らせください。折り返し、
クーポンコードをお知らせします。

No

この機会に
分子生物学会への入会を
ご検討ください

入会後

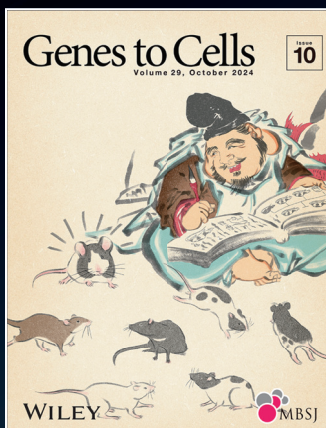
未入会の方は、通常の出版手続きを
優先して行い、入会手続き完了後に
OAの申し込みをしてください。

※3：2024年4月現在：弘前大学、岩手大学、東北大学、秋田大学、山形
大学、茨城大学、群馬大学、埼玉大学、東京大学、東京工業大学、電気通
信大学、横浜国立大学、山梨大学、信州大学、総合研究大学院大学、福井
大学、静岡大学、東海国立大学機構（名古屋大学、岐阜大学）、豊橋技術
科学大学、三重大学、京都大学、大阪大学、岡山大学、広島大学、高知大
学、九州大学、九州工業大学、鹿児島大学、札幌医科大学、東京都立大学、
埼玉医科大学、神奈川大学、慶應義塾大学、上智大学、東京医科大学、東
京薬科大学、東京理科大学、東洋大学、日本医科大学、明治大学、立命館
大学、兵庫医科大学、沖縄科学技術大学院大学、日本原子
力研究開発機構、物質・材料研究機構。最新のリストは
右の二次元コードからご確認ください。

※4：3,800米ドル→3,000米ドルへ割引されます。
（2024年4月現在）



割引の併用はできません。



Genes to Cells

Published on behalf of the Molecular Biology Society of Japan

Edited by: Eisuke Nishida

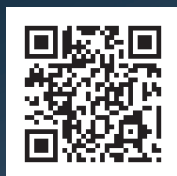
Frequency: Monthly | Impact Factor 1.3

日本分子生物学会の学会誌Genes to Cellsは、分子生物学の優れた研究成果を掲載し、著者にとって有益な学術情報や先見性の高い最新の研究情報を提供しています。全世界11,000以上の機関で読まれており、年間420,000件以上のダウンロード数を誇ります。是非Genes to Cellsにご投稿ください。

Genes to Cells 投稿の利点

- わかりやすく便利なオンライン投稿システム
- カラー掲載料無料
- 出版までの過程をお知らせするAuthor Servicesをご利用いただけます
- 早期出版EarlyViewサービスにより、最新号への掲載を待たずにオンラインで出版されます
- 出版後6ヵ月経過した全論文が無償公開となり、世界中からアクセス可能になります
- オープンアクセス希望者はオプションで『Open Access』（有料）を選択できます
 - 代表責任著者のご所属機関がWileyと転換契約を結んでいれば、割引を受けられます
 - 上記に該当しない場合でも、共著者にMBSJ会員が含まれていれば割引があります
- 総説は日本分子生物学会のサポートを受け、無償でOpen Accessとして出版されます

詳しくはこちらをご参照ください <https://www.mbsj.jp/gtc/index.html>



オンライン投稿はこちら <https://mc.manuscriptcentral.com/gtc>

2022年・2023年出版 引用数TOP論文 *2024年9月現在

An ALS-associated KIF5A mutant forms oligomers and aggregates and induces neuronal toxicity (Volume 27, Issue 6)
Nakano, J; Chiba, K; Niwa, S

XRCC1 counteracts poly(ADP ribose)polymerase (PARP) poisons, olaparib and talazoparib, and a clinical alkylating agent, temozolomide, by promoting the removal of trapped PARP1 from broken DNA (Volume 27, Issue 5)
Hirota, K; Ooka, M; Shimizu, N; Yamada, K; Tsuda, M; Ibrahim, M. A.; Yamada, S; Sasanuma, H; Masutani, M; Takeda, S

Improved anti-solid tumor response by humanized anti-podoplanin chimeric antigen receptor transduced human cytotoxic T cells in an animal model (Volume 27, Issue 9)
Ishikawa, A; Waseda, M; Ishii, T; Kaneko, M. K.; Kato, Y; Kaneko, S

Roles of the second messenger c-di-GMP in bacteria: Focusing on the topics of flagellar regulation and *Vibrio* spp. (Volume 27, Issue 3)
Homma, M; Kojima, S



ジャーナル閲覧ページ

www.wileyonlinelibrary.com/journal/gtc

日本分子生物学会員は無料でアクセスできます。

初回ユーザー登録は学会事務局まで (info@mbsj.jp)

登録後の問合せはWileyまで (cs-japan@wiley.com)



WILEY

The Molecular Biology Society of Japan NEWS

日本分子生物学会 会報

(年 3 回刊行)

第 140号 (2024年11月)

発 行——特定非営利活動法人 日本分子生物学会

代表者——後藤 由季子